

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

静岡県伊東市

○学校名

伊東市立大池小学校

○学校のURL

<http://ito-school.jp/ooike/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年3学級、【特別支援学級】0学級、【合計】18学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】509人（平成26年12月1日現在）
（内訳：1年生90人、2年生74人、3年生83人、4年生76人、5年生93人、6年生93人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成25・26年度静岡県教育委員会人権教育研究指定校
平成25・26年度伊東市教育委員会人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

教育目標「本気で学び 思いやりのある子」 重点目標「聴こう 話そう」

【人権教育に関する目標】

「自分が好き 友達が好き 大池小が好き ～自分の大切さ、友達の大切さを実感する子の育成～」

○人権教育に係る取組一口メモ

授業改善、一斉道徳、人権集会、ソーシャルスキルトレーニング、じまんづくりを通じた人権感覚の育成

○人権教育にかかる取組の全体概要

○学校の教育活動全てを通じて実践する人権教育の実践

- ・授業改善に取り組み、一人一人の考えを大切にする授業の実践
- ・道徳、ソーシャルスキルトレーニング、人権集会等による心の伸張
- ・児童会活動を中心にした「大池小じまんづくり」の実践

○PTA発信による「チャレンジファミリー大作戦」の取組

3. 特色ある実践事例の内容

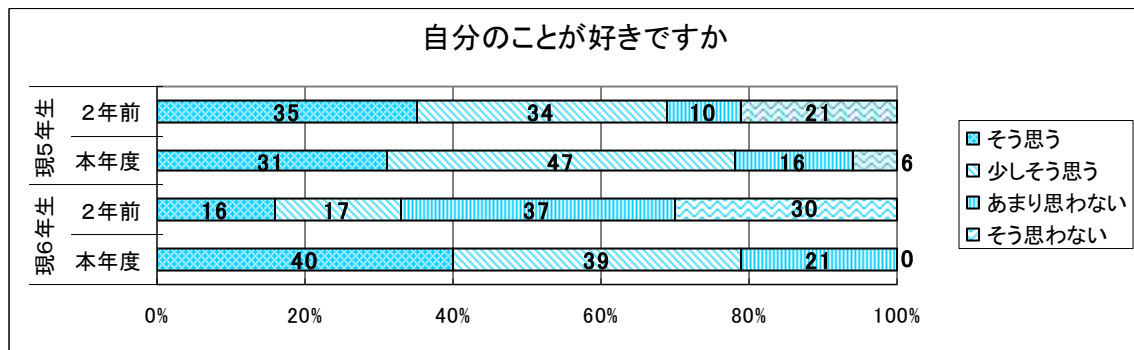
- ・ 「学び部」による授業改善の実践。授業のねらいの明確化・共有化による、どの子も確かな学びの実感を獲得できる支援の工夫。「交流タイム」を位置づけることによる、かかわり合いながら、自他を大切にしながら学び合う態度の育成、「分かち合いタイム」による、学習定着の振り返りと、友達のいいところを出し合い、賞揚し合う場の設定。以上のような授業改善に取り組み、学力向上による自尊感情の高まり、授業の中で自分と違う考えを認める心情の育成に取り組んだ。友達の意見を共感的に「聴くこと」には成長が見られたが、自分の考えをわかりやすく「話す」ことについては課題が残り、スピーチや話し方のスキルを教えるなどの支援を行った。
- ・ 「こころ部」による心の伸長に向けた実践。全教育活動とリンクさせた道徳全体計画の作成による年間を見通した道徳や全校一斉道徳に取り組み、人権感覚の育成を図った。また、ソーシャルスキルトレーニングの全校実施により、他のかかわり方のスキルを獲得できる子が増え、円滑な人間関係を築ける子が多くなった。更に「人権集会」を年3回開催し、自分や友達のいいところを探し、認め合って生活することの意識を高める機会とした。アンケート結果を示すことで、自分たちの実態を知り、改善していこうとする心情が芽生えた。また、特別な支援を要する子への個別支援計画を作成し、「どの子も」という視点に立ち、全職員でかかわっていくことに取り組んだ。
- ・ 「特別活動部」による、子供たち自身がつくり上げる学校の実践。「大池小3つのじまん」を、委員会活動やたてわり活動でつくり上げていく活動に取り組んだ。「あいさつ」「そうじ」「やさしさ」を大池小のじまんにしようと、児童会がリーダーシップをとり、キャラクターを作ったり、委員会ごとにイベントを開催したりした。自分の学校に誇りをもつ心情の高まりが見られた。
- ・ PTA発信による「チャレンジファミリー大作戦」の実施。各家庭で「あいさつ」「お手伝い」「1日のできごとを話す」の3つを行い、家庭と連携して人権感覚を育成していった。実施率は80%を超え、家庭での親子関係がよくなっていったという意見が多数聞かれるようになった。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

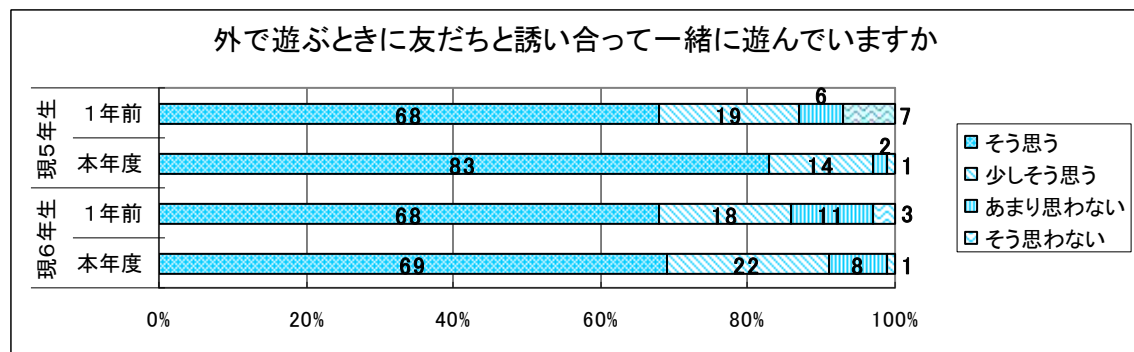
- ・ 「分かち合いタイム」が、「いいこと見つけ」だけで終わらないように、本時のねらいに即した振り返りをする内容にした。こうすることによって、他を認め合う機会とともに、学びの実感を得られる時間となった。
- ・ 学校では「さん付け」をしているが、家庭や地域に帰るとしなくなるという実態がある。今後、広く地域や家庭に啓発していく必要がある。
- ・ 教師の人権感覚を磨くために、「人権感覚が高まった姿」を出し合い、互いに授業を見合うことで、子供を大切にする人権感覚を身に付けていった。

5. 実践事例の実績、実施による効果

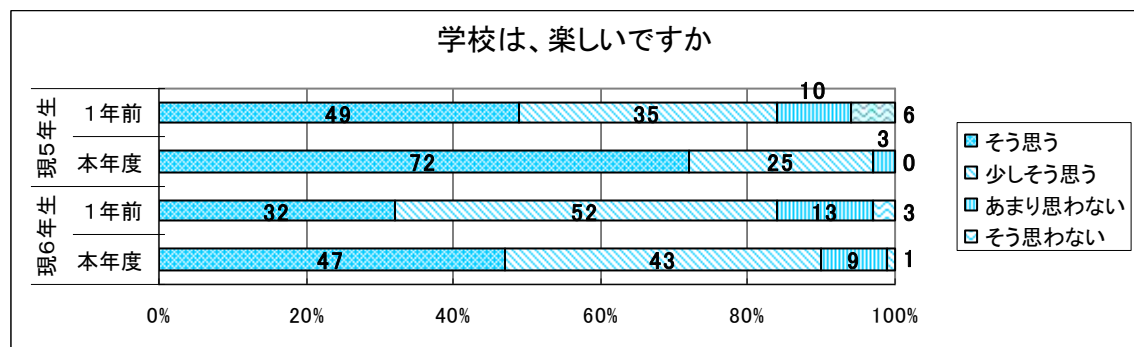
- グラフは、「人権アンケート」の同一学年の追跡調査の結果である。研究テーマ「自分が好き」「友達が好き」「大池小が好き」の成果を表す内容のものを選んだ。



- 「自分が好き」と答える子供の割合が、研究前と比べ、今年度は大きく増加した。また「そう思わない」と答えた子が現6年生では0人となった。



- 友達との円滑な人間関係がつけられてきたことがわかる。「そう思わない」と答えた子の割合が、現5年生、現6年生ともに1%に減少したことから、アサーショントレーニングの実施により、友達との関わり方が身に付いてきた姿を感じる。



- 学校に楽しく通えることが一番大切であるという認識のもとに研究に取り組んできた。グラフは高学年のものだが、全校児童でも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせて94%が楽しいと答えている。しかし残り6%、30人の「楽しくない」と感じている子供たちのことを重く受け止め、一人一人を大切に見ていくことを継続していきたい。

6. 実践事例についての評価

- ・ 自尊感情の高まりは、アンケート結果からも見られ、日頃の子供たちの言動からも感じることができる。今年度になり、不登校が0人になったことは、円滑な人間関係が生まれたこととして評価できる。
- ・ 3つのじまん「あいさつ」「そうじ」「やさしさ」は広く全校に浸透し、常に意識しながら学校生活を送っている様子が窺える。
- ・ 「チャレンジファミリー大作戦」の実施率も上がり、この取組によって「家庭での会話が増えた」「子供が明るくなった」という意見をいただいた。
- ・ 豊かな人権感覚を育むためには、地域や家庭との連携が必要不可欠である。学校では、人権感覚を常に意識した場を設定することはできるが、それを地域や家庭につなげていく取組を考えていく必要がある。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

伊東市立大池小学校

人権教育に関する目標を「自分が好き 友達が好き 大池小が好き」と定め、「授業改善」「心の伸張に向けた実践」「児童会活動を中心とした『大池小じまんづくり』の実践」の三つを柱に、人権尊重の視点に立った学校づくりを進めている。

特に「心の伸張に向けた実践」では、ソーシャルスキルトレーニングの全校実施により、互いのかかわり方のスキルを獲得できたことにより、円滑な人間関係を築ける子どもが多くなったという成果をあげている。また、人権集会を年三回開催するなど、互いを認め合って生活することの意識を高め合う場面も設定されている。これらの取組による成果は、人権教育の目標と関連する「自分のことが好き」「友達と一緒に遊んでいる」「学校は、楽しいですか」を問う「人権アンケート」の結果としても現れ、特に、500人規模の小学校であっても不登校児道が0人という結果にもつながっている。